

神奈川県におけるアカウミガメの記録

丸山 一子・中村 一恵

Kazuko Maruyama and Kazue Nakamura:

Records of the Loggerhead Turtle *Caretta caretta* Observed in Kanagawa Prefecture

はじめに

九州から本州中部に至る太平洋岸の砂浜はアカウミガメの重要な繁殖場である(内田, 1982)。神奈川県の沿岸域も本種の産卵地の一つとして知られている。しかし、本種に関する情報はいずれも断片的なものであり、神奈川県全域についてまとめた報告例はない。1960年から1996年までの記録を整理し、生息状況に関する分析を行ったので報告する。

調査地域および分析方法

調査地域は、湯河原町から三浦市に至る相模湾沿岸および三浦市から横浜市に至る東京湾(浦賀水道を含む)沿岸にかけての神奈川県沿岸全域とした(図1)。

既報の記録に加え、新たに沿岸の自治体および県の機関の所蔵する記録、博物館・水族館の所蔵する標本と記録および新聞記事の収集を行った。さらに聞き取り調査を行い記録に加えた。

得られた記録を、上陸・産卵確認個体(子ガメの

確認例を含む)、海岸での死亡確認個体、沖合での確認個体(定置網での確認個体および沖合で確認したとの記載がある個体)に分けて年代別に集計した。さらに、自治体別に整理を行い、また、海域(相模湾および東京湾沿岸)ごとのアカウミガメの発見状況を、上陸・産卵個体、子ガメ確認例、死亡確認個体、沖合での確認個体、不明の5項目に分けてまとめた。上陸・産卵個体、死亡確認個体および子ガメ確認例については、月別の出現数の集計を行った。その際、1個体の雌から生まれたと思われる複数の子ガメの記録は1個体分の情報として取り扱い、近接した場所で近接した日に確認された子ガメの情報も同一雌個体分として扱った。定置網での確認数調査は1989年に始まっており、また1996年のデータは入手できなかったため、1989年～1995年の記録を載せた。

結 果

収録したアカウミガメの確認場所、確認日時、確認状況、情報源を表1に示す。今回、収録できたアカウミガメは、1960年から1996年の37年間で109件203個体である。確認個体数を年代別に比較し表2に示す。沖合での確認個体は、ほとんどが定置網での調査によって得られたもので、1985年以前および1996年の確認例はない。海岸部においては、近年になるほど確認数が増えているという結果になった。

自治体別確認個体数(図1, 表3)は、上位から横須賀市48個体、鎌倉市43個体、

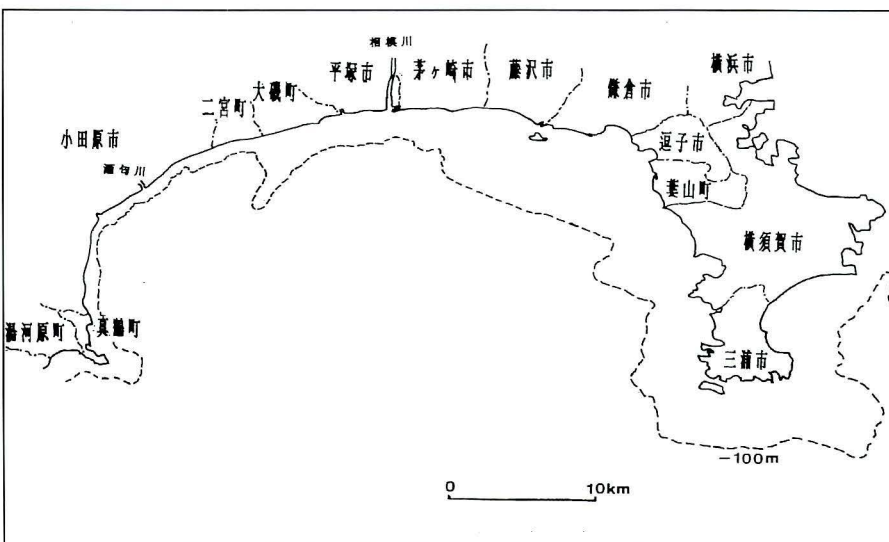


図1. 神奈川県の自治体。

表 1. 神奈川県におけるアカウミガメの記録.

日 時	場 所	状 況	文 献	備 考
1960. 09. 03	小田原市酒匂川河口海岸	子ガメ	柴田 (1968), 柴田 (1978)	
1961. 07. 26	三浦市城ヶ島海岸	上陸, 産卵	柴田 (1968)	
1963. 07. 07	鎌倉市材木座海岸	上陸	柴田 (1986), 毎日新聞1963. 07. 09付	甲長1m, 体重180kg. (新聞ではアオウミガメとなっている)
1966. 07. 14	鎌倉市由比ヶ浜海岸	上陸, 産卵	柴田 (1986), 柴田 (1978)	
1967. 08. 04	鎌倉市七里ヶ浜海岸	上陸, 産卵	柴田 (1986)	
1967. 09. 28	鎌倉市七里ヶ浜海岸	子ガメ	柴田 (1986)	前行の記録と同一である可能性あり
1975. 09. 20	横須賀市野比海岸	子ガメ (?)	柴田 (1977), 柴田 (1978)	
1976. 10. 23	横須賀市野比海岸	子ガメ24個体	神奈川新聞1976. 11. 10付, 柴田 (1977), 柴田 (1978)	
1977. 06. 21	小田原市南町荒久海岸	上陸, 産卵	神奈川新聞1977. 06. 23付, 浜口 (1995)	体長1. 2m, 甲幅80cm以上
1977. 07. 01	横浜市新子海岸	上陸	朝日新聞・神奈川新聞1977. 07. 02付	東京ガス工場内, 甲長約80cm, 甲幅約70cm
1977. 07. 16	小田原市国府津海岸	死体	神奈川新聞1977. 07. 17付	体長1mを超す
1978. 07	三浦市海岸	上陸	神奈川新聞1978. 09. 09付, 浜口 (1995)	堤俊夫氏情報, 4~5回カメの足跡を発見
1978. 08. 11	三浦市海岸	上陸, 産卵	神奈川新聞1978. 09. 09付, 朝日新聞1978. 10月記事, 柴田 (1978), 浜口 (1995)	堤俊夫氏の情報, 9月30日および10月に子ガメ2頭と脱出後の卵殻約20個を確認
1981. 09. 18	藤沢市鵠沼海岸	子ガメ3個体	江ノ島水族館記録	
1983. 05. 30	藤沢市辻堂海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録, 神奈川新聞1983. 08. 10付	産卵数120, 1983. 08. 04孵化
1983. 07. 22	三浦市南下浦町海岸	上陸, 産卵	神奈川新聞1983. 07. 23付, 浜口 (1995)	体長約1m
1984. 08.	藤沢市片瀬海岸	子ガメ18個体	江ノ島水族館記録	
1984. 08. 07	葉山町森戸海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録	産卵数120, 09. 30~10. 01に孵化
1984. 09. 03	小田原市国府津海岸	子ガメ	江ノ島水族館記録	甲羅の配列がアカウミガメと同じ
1984. 09. 13	小田原市国府津海岸	子ガメ3個体	江ノ島水族館記録	前行の記録と同腹として扱う
1985.	大磯町海岸	上陸, 産卵	丸山 (1996)	大磯町二宮徹氏情報
1985. 06. 04	逗子市逗子海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録	産卵数121, 08. 08に孵化
1985. 07. 30	平塚市袖ヶ浜海岸	死体	平塚市博物館 (1991)	平塚市博物館骨格標本, 甲長83cm
1986. 08. 01	茅ヶ崎市浜須賀海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録	産卵数96, 09. 21~10. 02に孵化
1986. 09. 18	藤沢市鵠沼海岸	子ガメ5個体	江ノ島水族館記録	
1986. 09. 21	小田原市早川海岸	子ガメ	江ノ島水族館記録	通報による記録
1986. 10. 25	藤沢市片瀬東浜	子ガメ11個体	江ノ島水族館記録	
1988. 07. 06	大磯町国府本郷海岸	死体	青木ほか (1993)	大磯町郷土資料館骨格標本
1988. 07. 09	鎌倉市由比ヶ浜	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録	産卵数159, 09. 04~09. 07に孵化
1988. 10. 14	鎌倉市腰越海岸	子ガメ	江ノ島水族館記録	
1988. 10. 16	鎌倉市腰越海岸	子ガメ27個体	江ノ島水族館記録	前行の記録と同腹として扱う
1989.	横須賀市長井沖	定置罾, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1989.	三浦市海岸	幼体, 衰弱個体を保護, その後死亡	神奈川県水産課資料	京急油壺マリンパークで保護, その後死亡
1989.	小田原市岩沖	定置罾, 15個体	神奈川県水産課資料	底建網のため, すべて死亡
1989.	小田原市福浦沖	定置罾, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1989.	神奈川県内沖	定置罾, 3個体	神奈川県水産課資料	場所の特定できず, うち2個体は死亡
1989. 07. 16	小田原市福浦沖	卵確認	江ノ島水族館記録	卵10個浮上, 通報による記録
1989. 07. 20	藤沢市鵠沼海岸	漂着後まもなく死亡	松島義章氏情報 (未発表)	神奈川県立生命の星・地球博物館骨格標本
1989. 09. 26	二宮町柳切川河口海岸	死体	丸山 (1990)	
1990.	横須賀市長井沖	定置罾, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1990.	三浦市金田沖	定置罾, 2個体	神奈川県水産課資料	京急油壺マリンパークに寄贈
1990.	二宮町沖	定置罾, 2個体	神奈川県水産課資料	中層網で死亡
1990.	葉山町沖	定置罾, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1990. 05. 30	大磯町海岸	上陸, 産卵	丸山 (1996)	倉藤氏観察, 大磯町郷土資料館の情報
1990. 06. 13	大磯町小瀬海岸	上陸, 産卵	丸山 (1996), 大磯町郷土資料館記録	鈴木・上村氏観察, 08. 13に子ガメ確認
1990. 06. 15	茅ヶ崎市海岸	上陸, 産卵	丸山 (未発表)	08. 19孵化, 茅ヶ崎市漁業関係者の情報
1990. 07. 20	逗子市逗子海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録, 朝日新聞1990. 09. 27付, 神奈川県水産課資料	産卵数109, 09. 06~09. 14に孵化, 放流
1991.	横須賀市長井沖	定置罾, 9個体	神奈川県水産課資料	うち死亡1個体, 他は放流
1991.	横須賀市東部沖	定置罾, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1991.	鎌倉市沖	定置罾, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1991.	鎌倉市腰越沖	定置罾, 8個体	神奈川県水産課資料	放流
1991.	三浦市諸磯沖	定置罾, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1991.	小田原市根府川沖	定置罾, 4個体	神奈川県水産課資料	うち死亡4個体

日 時	場 所	状 況	文 献	備 考
1991.	逗子市小坪沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1991.	大磯町国府新海岸	死体	丸山 (未発表)	大磯町大谷氏よりの情報
1991.	二宮町沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	うち死亡2個体
1991.	葉山町沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1991. 07. 06	真鶴町海岸	死体	平塚市博物館 浜口氏情報 (未発表)	聞き取り
1991. 07. 20	茅ヶ崎市浜須賀海岸	上陸, 産卵	毎日新聞 1991. 10. 2付, 浜口 (1995)	少なくとも1匹の稚ガメが孵化
1992.	横須賀市長井沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1992.	横須賀市東部沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1992.	鎌倉市沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1992.	三浦市諸磯沖	定置網, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1992.	藤沢市海岸	上陸, 産卵	神奈川県水産課資料	産卵数約200 (推定値)
1992.	葉山町海岸	上陸, 産卵	神奈川県水産課資料	産卵数約200 (推定値)
1992. 06. 04	鎌倉市腰越海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1992. 07. 22	二宮町茶屋海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1993.	横須賀市長井沖	定置網, 8個体	神奈川県水産課資料	放流
1993.	鎌倉市沖	定置網, 10個体	神奈川県水産課資料	うち死亡1個体
1993. 06. 08	真鶴町三ツ石海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1993. 06. 15	大磯町不動川河口	死体	丸山 (1996), 湘南なぎさ事務所記録	甲長87㎝, 甲幅66㎝
1993. 06. 16	横須賀市秋谷海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1993. 07. 26	鎌倉市材木座海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録, 朝日新聞 1993. 10. 17付, 神奈川県水産課資料	産卵数124, 09. 24~10. 11に孵化, 放流
1993. 08. 12	二宮町下町海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1993. 10. 01	鎌倉市材木座海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1994.	横須賀市長井沖	定置網, 10個体	神奈川県水産課資料	放流
1994.	横須賀市東部沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1994.	横浜市沖 (?)	小型底引き網, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1994.	鎌倉市沖	刺し網, 7個体	神奈川県水産課資料	放流
1994.	鎌倉市海岸	死体	神奈川県水産課資料	
1994.	三浦市諸磯沖	定置網, 5個体	神奈川県水産課資料	放流
1994.	逗子市小坪沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1994.	湯河原町福浦沖	定置網, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1994.	葉山町沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1994. 05. 27	茅ヶ崎市海岸	死体	丸山 (未発表)	甲長77㎝
1994. 06. 21	大磯町西小磯海岸	死体	丸山 (1996), 大磯町郷土資料館記録	
1994. 07. 20	鎌倉市材木座海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録, 神奈川県水産課資料	産卵数118, 09. 06~09. 08に孵化
1994. 07. 21	三浦市三戸海岸	上陸, 産卵	横須賀博物館 林公義氏情報 (未発表)	9月9日孵化, 稚ガメ1+脱出後卵殻105
1994. 08. 02	平塚市龍城ヶ丘海岸	死体	平塚市博物館 浜口哲一氏情報	平塚市博物館複製標本, 甲長70㎝
1994. 08. 29	大磯町東町海岸	死体	丸山 (1996)	甲長88㎝, 甲幅59㎝
1995.	横須賀市長井沖	定置網, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1995.	横須賀市東部沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1995.	三浦市諸磯沖	定置網, 4個体	神奈川県水産課資料	放流
1995. 05. 05	逗子市海岸	死体	池田等氏情報 (未発表)	確認のみ, 写真撮影
1995. 07.	葉山町長者ヶ崎海岸	上陸, 産卵	池田等氏情報 (未発表)	確認のみ
1996. 06. 23	鎌倉市稲村ヶ崎海岸	上陸, 産卵	朝日新聞, 1996. 09. 03付	09. 02に孵化後の卵92個と稚ガメ1頭確認
1996. 06. 24	小田原市浜町海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1996. 07. 下旬	横須賀市秋谷海岸	上陸, 産卵失敗	横須賀博物館 林公義氏情報 (未発表)	異常高潮時, あちこち穴を掘ったが, 産卵せず
1996. 07. 10	鎌倉市材木座海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録	産卵数117, 08. 31~09. 03に孵化
1996. 07. 25	鎌倉市稲村ヶ崎海岸	上陸, 産卵	鎌倉市役所資料	鎌倉市の梅原氏情報
1996. 08. 11	葉山町一色海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録	通報による記録
1996. 08. 20	大磯町不動川河口海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	
1996. 08. 22	茅ヶ崎市菱沼海岸	死体	山田・井川 (1996)	甲長約60㎝
1996. 08. 23	茅ヶ崎市浜須賀海岸	死体	湘南なぎさ事務所記録	上記の記録と同一個体である可能性あり
1996. 10. 11	平塚市虹ヶ浜海岸	子ガメ約30個体	平塚市博物館 浜口氏情報 (未発表)	発見者により放流される
不明	二宮町海岸	死体	丸山 (未発表)	聞き取り, 大磯町国府中学校の標本
不明	小田原市酒匂川河口海岸	死体 (?)	横須賀市博物館標本目録	液浸標本
不明	不明	不明	中村・川瀬 (1976)	広崎 (1964) からの引用
不明	不明	不明	Nishimura (1967), 中村・川瀬 (1976)	

表2. 年代別のアカウミガメ確認件数.

年代	上陸(産卵)	死亡	沖合	合計
～1960	1 (1)			2 (1)
1961～1965	2 (1)			2 (1)
1966～1970	3 (3)			3 (3)
1971～1975	1 (1)			1 (1)
1976～1980	5 (3)	1		6 (3)
1981～1985	8 (8)	1		9 (8)
1986～1990	10 (10)	3	34	47 (10)
1991～1995	7 (7)	15	98	120 (7)
1996	6 (5)	4		10 (5)
合計	43 (39)	24	132	199 (39)

年代不明の4個体は集計から除く.

表3. 自治体別のアカウミガメ確認件数.

自治体名	上陸(産卵)	死亡	沖合	合計
横浜市	1 (0)	0	2	3
三浦市	5 (4)	0	17	22
横須賀市	3 (2)	1	44	48
葉山町	4 (4)	0	5	9
逗子市	2 (2)	1	2	5
鎌倉市	11 (10)	3	29	43
藤沢市	6 (6)	1		7
茅ヶ崎市	3 (3)	3		6
平塚市	1 (1)	2		3
大磯町	3 (3)	6		9
二宮町	0 (0)	4	4	8
小田原市	4 (4)	3	23	30
真鶴町	0 (0)	2		2
湯河原町	0 (0)	0	3	3
その他			3	3
合計	43 (39)	26	132	201

場所不明の2個体は集計から除く.

小田原市30個体, 三浦市22個体の順になる。相模湾のほぼ中央部に流入する相模川を境にしてまとめると, 相模川以東(横浜市～茅ヶ崎市)の143個体に対し, 相模川以西(平塚市～湯河原町)は55個体となり, 県東部で多い。この数値には, 各自治体の定置網の設置数の差も反映されていることが考えられるため, 上陸個体のみにについて比較すると, 鎌倉市11個体, 藤沢市6個体, 三浦市5個体, 小田原市4個体, 葉山町4個体の順になる。相模川以東の計35個体に対して以西は計8個体となり, 同じく東部地域で多い。一方, 死体で確認された個体数は相模川以東9個体に対し以西17個体であり, 西部地域で多い。

表4. 海域別のアカウミガメ発見状況.

発見状況	相模湾	東京湾	合計
上陸(産卵)個体数	30 (27)	1 (0)	31
子ガメ確認件数	10	2	12
死亡確認個体数	26		26
沖合での確認個体数	122	10	132
不明	2		2
合計	190	13	203

海域別の確認数を表4に示す。相模湾沿岸における確認数は190個体で, 内訳は海岸での確認66個体, 沖合での確認122個体, 不明2個体である。これに対し, 東京湾沿岸の確認数は13個体で, 内訳は海岸3個体, 沖合10個体である。本種の確認総数203個体のうち, 沖合における確認数は計132個体(65%)を占め, 海岸部での確認数計69個体(34%)を大きく上回る。海岸で確認された個体には死体が含まれており, 親ガメの上陸が確認されたのは計30個体, うち産卵が確認された個体は27個体にとどまる。そのほかに埋蔵された卵や子ガメの出現から親ガメの上陸・産卵が確認された事例が12例あるが, それを加えても上陸例は計42個体分であり, うち産卵確認例は計39個体分に過ぎない。

月別確認数を表5に示す。上陸個体は5月から8月にかけて出現し, ピークは7月である。子ガメは8月から10月に観察された。死亡個体は5月から10月にかけて確認された。

考 察

1960年以前のアカウミガメの生息状況を記録した資料はほとんどないが, 葉山町しおさい博物館の池田等氏や二宮町在住の西山敏夫氏によれば, 昔はアカウミガメの上陸・産卵はごく普通のできごとだったという。鎌倉市および藤沢市海岸については, 「毎朝数頭づつの上陸・産卵を見た」という内田至氏の情報がある(浜口, 1995)。今回の調査で得られた上陸観察時期が5月から8月にわたることから考えると, 当時の上陸個体数は, 両市の海岸だけで少なくとも数十個体に達していたと推測される。1960年以降に確認された上陸個体は, 二つの市の海岸を合わせて17個体に過ぎず, アカウミガメの上陸・産卵は, 1960年以後に大幅に減少したと考えられる。今回の調査における1年当たりの上陸個体数は, 1996年の6個体を除けば2個体以下で, 屋久島, 南九州, 御前崎の各100個体以上(馬塚, 1991), 宮崎県と鹿児島県の海岸での2,700個体(複数回産卵や非産卵上陸を考慮に入れると実数は675個体と推算されている)(岩本, 1991)に比べ非

表5. 月別のアカウミガメ確認件数.

月	上陸(産卵)	死亡	子ガメ	合計
1月				
2月				
3月				
4月				
5月	2 (2)	2		4
6月	5 (5)	6		11
7月	16 (12)	6		22
8月	5 (5)	6	1	12
9月		1	7	8
10月		1	4	5
11月				
12月				
不明	3 (3)	3		6
合計	31 (27)	25	12	68

常に低い数値である。

1960年以降の確認数を年代別に集計すると、近年ほど確認数が多くなるという結果になった。なかでも死体の確認情報が増えている。聞き取り情報からみて、情報増加の原因は実際の来遊数の増加にあるとは考えにくく、来遊数が少なくなるにつれてアカウミガメの希少価値が高まり、来遊記録や定置網での情報の収集に費やされる努力量が増えたことにあるのではないかと考えられる。

神奈川県域でアカウミガメが新聞記事に現われ始めた1963年や、新聞記事の数が急に増えだした1976年頃は、西湘バイパス（相模湾西部の海岸沿いに建設された自動車専用道路）の建設時期（1964年工事開始、1972年全線開通）や、相模湾東部の海岸沿いを走る国道134号線の街灯設置時期（1965年以降）とほぼ一致し、この時期の海岸線の人為的な環境変化によって上陸・産卵が大きな影響を受けたことが推定される。西山敏夫氏も、上陸個体が急激に減少したのは、1917年（大正6年）の大海嘯（台風による高波）で浜の奥行きが減った時と西湘バイパスができた時だったと語っている。また、海洋汚染が問題になり始めた時期であり、首都圏に含まれる神奈川県は、その影響も深刻だったのではないかと考えられる。

相模湾の東半分で西半分より観察数が多いことについては以下の理由が考えられる。

東側では国道と砂浜の間に、道路の光を遮る防風林が整備されており、海が遠浅であることもあって（図1）、砂浜が比較的広く確保されている。これに対し、湾の西半分を通る西湘バイパスでは、道

路が波打ち際に沿って作られ、道路の脇に防風林を設置する余地のない区間が多い。最近では海岸の侵食が目立つことから、コンクリートの護岸や消波ブロックで固められた箇所もある。また小田原市より南では、岩浜や礫の浜が多く砂浜が少ない。したがって、湾の西側に比べ東側の方が本種の上陸・産卵により適していると考えられる。

定置網にかかったアカウミガメは放流されているが、中には放流前に死亡する個体もあり、放流された個体も衰弱していることが推測される。馬塚（1991）は、死後漂着した個体の中に、網にかかり死亡した後、網からはずされ漂流したものが含まれていると述べている。西山敏夫氏は、「昔は天然繊維で網を作っていたので、網糸が太くウミガメにも見えやすかったが、最近では化学繊維で作るため糸が細くなって、ウミガメが絡まりやすくなった。」と語っている。

浜口（1995）は、神奈川県のアカウミガメの保護における問題点として、道路の建設や波による侵食のため砂浜が消失したこと、照明や人出のために産卵可能な静かな環境の海岸がなくなったこと、砂浜への自動車乗り入れにより輻が稚ガメの移動に障害となっていることを挙げている。神奈川県海岸沿いの道路は、夜間も車の通行が途絶えることがなく、港湾施設や国道沿いの施設の照明も夜の光環境を悪化させている。さらに、観光地である湘南海岸では、夜を徹して砂浜で花火を打ち上げたり、たき火をしながら騒ぐ等の行為が夏中続けられており、アカウミガメの上陸に障害になっていると思われる。四輪駆動車の流行で砂浜を走り回る車が多くなり、また、自治体が車による海岸清掃をしていることもあって、卵の圧死や孵化した幼ガメの移動阻害などの悪影響が危惧されている。そのほかに、川のダム建設に伴う流入土砂の減少で砂浜が狭くなること、堤防の建設、海洋環境の悪化に伴う餌資源の減少、ビニールゴミの誤飲による死亡等による影響が考えられる。

おわりに

アカウミガメの産卵を巡る状況は厳しいが、大磯町において本種の産卵保護のために海岸への車の乗り入れを禁止する条例が制定されたこと、江ノ島水族館によるアカウミガメの卵の人工孵化や稚ガメの放流など、保護をめざす活動が行われている。神奈川県レッドデータ生物調査では、アカウミガメは絶滅危惧種に挙げられている（浜口、1995）。本稿が今後の保護活動の参考になれば幸いである。

謝 辞

情報の収集に当たり、神奈川県水産課船木修氏、かながわ海岸美化財団青田育実氏、横須賀市自然・人文博物館林公義氏、葉山町しおさい博物館池田等氏、江ノ島水族館志村和子氏、平塚市博物館浜口哲一氏、県立生命の星・地球博物館松島義章氏、鎌倉市海浜課吉満雅弘氏、二宮町在住西山敏夫氏に大変お世話になった。以上の方々に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 青木雄司・丸山一子・槐真史, 1993. 脊椎動物(除く魚類)収蔵標本目録. 大磯町郷土資料館だより, (7):6-11.
- 浜口哲一, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 爬虫類. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), (7):137-139.
- 平塚市博物館, 1991. 動物資料目録Ⅰ, 爬虫綱, 平塚市博物館資料, (38):142-143.
- 岩本俊孝, 1991. 南九州のアカウミガメの生態と保護の現状. 野生動物保護—21世紀への提言—第1部, pp.280-288. 日本自然保護協会, 東京.
- 丸山一子, 1990. は虫両生類. 二宮町史, 資料編1, 自然, pp.279-296. 二宮町.

- 丸山一子, 1996. は虫類. 大磯町史9, 別編 自然, pp.373-384. 大磯町.
- 中村一恵・川瀬ツル, 1976. 三浦半島周辺で捕獲されたウミガメ2種とウミヘビ1種について. 横須賀市博物館館報, (22):37-40.
- Nishimura, S., 1967. The Loggerhead Turtles in Japan and Neighboring Waters (Testudinata:Cheloniidae). Publ.Seto Mar.Biol.Lab.,15 (1):19-35.
- 柴田敏隆, 1968. 三浦半島の爬虫類相. 横須賀市博研報自然, (14):95-102.
- 柴田敏隆, 1977. アカウミガメの寄贈. 横須賀市博物館館報ニュース. 横須賀市博物館館報, (23):59.
- 柴田敏隆, 1978. 動物分布調査報告書(両生類・は虫類)Ⅳ 神奈川県. 日本の重要な両生類・は虫類 南関東版, pp.1-13. 環境庁, 東京.
- 柴田敏隆, 1986. 鎌倉産爬虫・両生類目録. 鎌倉市文化 財総合目録 地質・動物・植物篇, pp.94-108. 鎌倉市.
- 内田至, 1982. 海ガメ学入門(Ⅱ). 繁殖の生態. 海洋と生物, 4 (6):1-9.
- 馬塚丈司, 1991. 遠州灘におけるアカウミガメの保護. 野生動物保護—21世紀への提言—第1部, pp.270-279. 日本自然保護協会, 東京.
- 山田栄三・井川洋介, 1996. アカウミガメの死体を見つけた. ウミガメ打ち上がる. 茅ヶ崎自然の新聞, (165):1.

(丸山:神奈川県藤沢市辻堂5948-1, 中村:神奈川県立生命の星・地球博物館)